

「土砂災害に対して何が出来るのか」

福井県 越前市武生第二中学校 1年 井手口 ^{いでぐち} 和都彩 ^{あづき}

近年では今までの想定を超える集中豪雨や台風などによる土砂災害が発生しています。記憶に新しいものでは、平成 26 年 8 月に発生した広島県広島市の住宅地をおそった大規模な土砂災害があります。最終的にこの土砂災害の被災地域の死者は 74 名、重軽傷者は 44 名にも上り、豪雨全体では 133 棟が全壊したのをはじめ 330 棟の家屋が損壊し、4,100 棟以上が浸水被害を受けたとのことで、豪雨や土砂災害が本当に恐ろしいものということがわかりました。

私たちが暮らしている福井県ではどのような土砂災害があったのか調べてみたところ、平成 16 年 7 月に発生した福井豪雨による被害がありました。当時、私は 2 才だったのでこのときの記憶はありませんが、美山地区や浄教寺地区などの大きな被害の記録映像や砂防が土砂を防いだ事例などをみることが出来ました。

私はこの二つの土砂災害の事例から、被害を最小限におさえるにはどのようにすればいいのか考えてみました。

まず、大きく分けて「すぐにも対処しなければ危険な場所の対策」「土砂災害を発生しにくくする対策」「地域住民や個人レベルでの対策」「過去の事例をもとにした対策」を考えました。

正直なところ、専門的な土砂災害の知識がありませんので、危険な場所の対策や土砂災害を発生しにくくするといったことは、それぞれの専門家の方や研究されている方でなければ意味がないと思ったので、「地域の人や個人レベルでの対策」と「過去の事例をもとにした対策」つまり人や考え方などのソフト面に注目して考えました。

始めに「地域住民や個人レベルでの対策」ですが、もっとも重要なことは、普段から自分の家が土砂災害危険ヶ所にあるかどうか確認することからだと思います。また、土砂災害の被害の中心は木造住宅の 1 階部分との統計が出ているので公的機関からの情報を中心としながらも、大雨の時や少しでも危険を感じた場合には、地域の頑丈な建物に避難出来るような地域ぐるみの連携が必要ではないかと思います。

また、もっと土砂災害への理解や知識を幼稚園や小学校の頃から教えることも良いのではないかと思います。私が小学校の頃、子供会で、南越前町にあるリトリートくらに行ったことがあるのですが、建物の中にアカタン砂防が写真などで紹介されていました。しかし、子供会の中でアカタン砂防なるものを知っている人はいませんでした。もちろんアカタン砂防のある地域の人には知っていると思いますが、このような貴重な情報を同じ嶺北の住民が知らないことが土砂災害や砂防という大切な減災設備にいかに関心であることの証明なんだということが感じられました。

次に「過去の事例」について、近年での事例はもちろん重要であることがわかります。しかし、東日本大震災で発生した津波では、昔の人が建てた「この先に家を建ててはいけない」と記された石碑を境にした津波の到達エリアが確認されています。また、津波の時には〇〇寺に行くこと、ここを右に山の方に走ることなどの言い伝えがいかに有効であったのが確認されています。記録にも残っていないものの中で大変重要なヒントがあるのではないかと考えました。言い伝えや伝承は次の世代につながらなければいけません。高齢のお年寄りや年配の人がご先祖から受け継いできた今の世代が知らないとても重要な「生きる知恵」があると思うのです。

耳にすると何を馬鹿な・・・と思うようなお話を可能な限り記録し、本当に意味はない話なのか確認をするべきだと思います。山あいや谷のような地形に暮らしてきた方々や地区の言い伝えを集め、地域にある石碑などについてももっと調べるからこそが必要なのではないかと思います。

私はそこに昔の人達が命がけて伝えてきた「宝の情報」がある気がするのです。